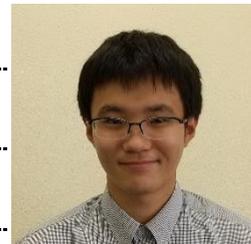


題名 広島平和記念式典派遣事業に参加して考えること。

鹿沼市立北押原中学校 (氏名) 川村 誠十郎



3日間の派遣事業で、僕はいくつか印象に残った事があります。1つ目は、平和公園内の色々な所で、像などがある中で、とある学校の亡くなった人の名がびっしりと書かれた岩でした。岩の裏に行かないと分からないので、具体的な人名が被爆の無残さを表していました。2つ目は、平和記念式典中やその後にしばしば起きたデモです。「戦争止めろ」と平和的な意味の部隊の他に「外国人は出ていけ」といった過激なものも。灯ろうにメッセージを書いている時には、特にたくさん聞こえて、何とも言えない気持ちになったのを覚えています。(メディアは一切とり上げない。)まとめると、平和というのは自分の都合だけでなく相手側の事を考えるべきだと考えました。

題名 ロシアのウクライナ侵攻に対して考えること。

鹿沼市立北押原中学校 (氏名) 川村 誠十郎

その2ヶ国の関係は、今に始まったことではない事を知っているだろうか。ロシアがソ連だったころの前、ソ連がまだロシアだったころのはるか前から領土の関係があったのだ。2ヶ国はもはや兄弟とも、宿敵とも言えてしまうほど熾烈な道を歩んできたのである。元々2ヶ国は「1つの国」であったが、分裂をくり返し、ウクライナとなる地域はその時から他の国の支配をうけてきたのだ。「1つの国」とは、キエフ大公国という名で1100年以上前に建国された。つまり気が遠くなるほどの昔から、「領土」という事で今に至るまで揉め続けているのだ。歴史的に見ると、戦いでしか結論を出した事ばかりであるが、そんな時代はもうおしまいになりたい。今までの執着になっている考えを捨てるべきだと思う。

題名 今日ある日本の平和について考えること。

鹿沼市立北押原中学校 (氏名) 川村 誠十郎

今の私らが生まれた時代は、穏やかな日々はよくあることだろう。だが、広い目でみるとそれは儚いことが分かってくる。平和を作り続けるのに大事なものは「他の事をよく知る事」だ。生まれる場所が今の日本ではなく武装勢力が統治する所や、ウクライナだったらどう思うだろうか。本当に場所によって考えが変わるであろう。我々はこの今の日本に生まれたが、このまま穏やかな日々が続くとは限らない。あらゆる物事は、経験や教えのもととはたらくとと思っているので、私は「日本の過去の歴史をもっと深く知るべき」という考えにたどりついた。時代によって常識や価値観はとんでもない程変化する。この先、どうなるか誰も分からない未来を生き抜くには、もっといろんな事を知らないといけないだろう。

題名 あなたにとって「平和な社会」とは何か、「平和な社会」を実現するために必要なこと。

鹿沼市立北押原中学校 (氏名) 川村 誠十郎

「相手の都合を考える」ということが、本質的なものではないかと考える。人類のあらゆる対人関係において、これが共通しているだろう。生活していく中で、相手の都合を考える場合と考えなかった場合では、自分の気持ちが大きく変わるだろう。考えない場合、その事実を「点」でしか捉える事ができない。だが、相手の都合を考えた場合、「前にあんな事があったからその行動を起こしたんだ」と事実とそれに関係する物が、「点と点が結ばれ線」になるのだ。それは、小さな個人の関係であろうが国同士の関係でもあっても変わりはない。とにかく「平和な社会」を実現するためには、自分にも相手にもある事実を受け入れるべきだと考えている。